

令和3年度

令和4年3月7日

# 遷喬小だより 3月号

TEAM 遷喬 PRIDE 遷喬

～子どもも 教師も 地域も 伸びる学校～

## 学校評価について

本校の取組について「学校運営協議会」にて学校評価をしていただきました。

保護者アンケートの結果や学校からの報告書をもとに、「学び合う子・支え合う子・鍛え合う子」の3項目についてそれぞれご意見や評価をいただくとともに、総合所見としてのご意見をまとめていただきました。

本校の取組に対して、成果と課題をご指摘いただき、来年度の方向性も見えてきたように思います。本当にありがとうございました。

保護者の皆様、地域の皆様にも学校評価を一読していただけたらと思います。

### 【知】 学び合う子

- ・ チャイムスタートがどの学年もできている。話す人の方を向いて「聴ききる」姿も、多くの学年で見られる。学校全体が落ち着いた雰囲気です。授業が行われ、児童も集中して学習に取り組んでいる。「聴ききる」の取組を継続してきた成果がみられる。
- ・ 学習の流れや学習のゴールがよく分かるような掲示物があり、教師と児童とで目標を共有することができている。
- ・ 根拠を示しながら、対話のある授業作りが実践されている。自分の意見を伝えたり説明したりすることが苦手な児童もいるが、今後も、自分の考えを伝える場面を増やしたり、児童の発言をつなぐ教師の問い返しをしたりし、児童の思考が深まる授業や児童が表現し合う姿が見られる授業を目指してほしい。

### 【徳】 支え合う子

- ・ 児童の縦・横の関係づくりが行われ、上級生下級生の関係もよい。また、多様化の社会の中、個性や能力が輝くインクルーシブ教育の礎を育もうとする教育は評価できる。
- ・ あいさつ運動を学校・児童・PTAとが一体となって取り組み、成果がみられる。あいさつ運動の時に限らず、校内外どこでも気持ちの良いあいさつができるよう頑張してほしい。
- ・ 運動会、学習発表会では、力一杯演技をし、生き生きと発表をしている姿や、児童の取り組んだ足跡の掲示物などから、児童が主体的に活動していることが感じられる。今後も、児童が主体的に活動する場面、児童の心に残る場面を増やし、自己肯定感や自己有用感が高まるよう、様々な活動や行事を行ってほしい。
- ・ 長欠不登校児童が減少傾向にあることは、学校の対応や関連機関との連携の成果が認められる。長欠不登校児童への対応については、その時その時の状況の把握とともに、将来の目標を見据えながら、継続して支援してほしい。

## 【体】鍛え合う子

- ・ 委員会活動を中心に、運動の習慣化に向けて児童が楽しく活動できるような取組がなされ、改善が進んでいる。子どもと一緒に教師も体を動かす時間を作ったり、集会活動を行ったりするなど、体を動かす事の楽しさが実感できるように、継続して取り組んでほしい。
- ・ 体育の授業参観や、体力づくりの取組など、保護者にも発信してほしい。
- ・ 運動や健康な生活の習慣化が最も大切なことである。家庭での外遊びが少なくなっていたり、タブレットやスマホの使用が増えたりしているのではないかとと思われる。視力への影響も心配である。メディアコントロールの取り組み方や、タブレット使用のルールや内容について検討し、学校と家庭とが協力して、生活習慣の改善に向けて取り組んでほしい。

## 学校関係者評価 総合所見

学びに向かう授業作りや教員の授業改善の取組で児童が落ち着いた環境で学習している姿が見られる。今後もこれらの取組を継続し、どの児童も生き生きと学習に向かう姿や自分の意見を伝え深めようとする姿が見られるように頑張ってもらいたい。児童の学びの足跡の掲示物や学校行事の様子などから、児童が主体的に活動している姿が見てとれる。自己肯定感や自己有用感が高まるよう、様々な活動や行事を行ってほしい。運動・健康の習慣化には課題がみられる。教師も一緒に遊ぶことで運動の楽しさを実感させたり、学校と家庭とが協力して生活習慣の改善に取り組んでほしい。

皆様からいただいた貴重なご意見やご指摘を踏まえ、来年度の学校経営に生かしていこうと思います。

## 学校関係者評価を受けての来年度方向性

- ・ 来年度は学校教育目標を「自ら未来を拓き 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」に改めるとともに、**遷喬グランドデザイン**に基づき、より高みを目指して教育活動を推進していきたい。
- ・ **学びに向かう姿勢**づくりに取り組んできたことで、どの学年も、チャイムスタート、「聴ききる」が定着し、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている。来年度は、「聴ききる」から「**聴き合う**」にキーワードを変更し、よりレベルを上げて取り組んでいきたい。**学習のゴール**（B評定）を児童と教員とで共有することで**学び合いの授業**が定着してきている。引き続き、**失敗を恐れず生き生きと自分を表現できる児童**の姿を目指して、B評定の基準や考え方を整理するとともに、児童の考えをつないだり、深めたりする授業作りの共通理解を図り、授業の質の向上を図りたい。
- ・ 児童が主体的に活動することができる場面を増やし、**自治能力の育成**や**自己有用感・自己肯定感**の高まるような活動を行っていく。長欠不登校対策については、**各種専門機関と連携**し、粘り強く支援を行っていきたい。
- ・ **運動・健康の習慣化**については、二極化がみられる。委員会活動を中心に運動する機会を設定したり、健康な生活についての集会を行ったりし、運動や健康の習慣化に向けた活動を行っていく。**メディアの使用時間や睡眠、運動、視力などの課題**が見られるので、**家庭とも連携した取組**を行っていく。